

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3271100582		
法人名	社会福祉法人 草雲会		
事業所名	グループホーム あしたか		
所在地	島根県八束郡東出雲町大字出雲郷490		
自己評価作成日	平成22年11月6日	評価結果市町村受理日	平成23年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hukushi-shimane.or.jp/kaigojyuhou/">http://www.hukushi-shimane.or.jp/kaigojyuhou/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	HPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成22年12月3日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

外観、内装共に古民家風の作りで、落ち着いて過ごせる雰囲気です。ヒノキ風の浴槽に、バリアフリーのすのこを敷き、安全にゆったりと入浴していただく為に、入浴時間は午後4時から午後8時の間で好きな時間を選択できます。手作業の充実を目指し、手芸や家事、趣味活動など会話の中からその方のやりたい事、できる事を見出し、行っていただき、又、その作品展示や折々の写真を展示する事で、ご利用者同士がお互いの作品を誉めあったり、面会のご家族にもご利用者のまだできる事を見ていただき、ご利用者間・家族間の交流にも役立っています。隣接の特別養護老人ホームやデイサービスのご利用者との交流会の実施や、小学校の音楽会や地域の文化祭に参加し外部との交流も深めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

書や絵、生け花、アロマテラピーなど、積極的にボランティアの協力を得て利用者の力を引き出し、利用者が楽しみながら生活できるように支援している。利用者のペースでの生活を大事にし、入浴は夕食後にも入浴することができる。運営推進会議への家族参加が増え率直な意見交換が行われている。法人の協力を得ながら利用者の生活を支え、新たに接遇委員会を立ち上げてサービスの改善に取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念について勉強会をスタッフ会内で開催し、理念の理解の充実を図った。	法人理念を理解しようと勉強会を行った。職員は「主役は利用者」という事業所理念を意識しケアを行っているが、今後地域密着型としての理念を深めていこうと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一番近隣の特別養護老人ホームやデイサービスとの交流を深め、又、幼稚園にも交流会を開催して欲しい旨の手紙を出した。(天候不良の為延期)地域の文化祭参加や小学校の行事に参加した。	地域の文化祭に作品を出展したり、小学校の運動会、ボランティアなどを通し交流に努めている。幼稚園との交流も計画している。	さらに、利用者が地域に出かける機会を多くし、日常的に地域の人と交流できることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族全員に運営推進会議への参加を呼びかけ、あしたかの現状や認知症について話を行う事によって、家族間の交流や認知症への理解を深めたが、地域の方への働きかけは無かった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族全員に運営推進会議への参加を呼びかけ、参加していただく事で、よりよいあしたかになるように意見をいただき、話し合いを行う事ができた。意見はスタッフ会にて提示し、サービス向上に役立てている。	利用者の状況や取り組みを報告し、出された意見は職員で検討し運営に反映させている。会議と併せ行事を行い委員にも利用者の生活を見てもらっている。	時には会議の曜日を変えるなど、なるべく多くの人が出席できるような工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは、日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、細かに連絡を取り合い、レントゲン撮影時には、ご利用者の見守りを行っていただいたり協力関係が築けた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出かけたい時に出かける援助を行う、を基本に対応したが、職員数の少ない時間帯や利用者の興奮が治まらず外出に危険が伴うと考えられる場合など玄関に施錠をしていた。どのように対応するかを毎度スタッフ会で話し合っている。	職員が一人で対応できない時は施錠することがあるが、できるだけ同行したり、法人職員の協力を得て対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、その内容をスタッフ会で発表し、理解を深め防止に努めたが、どの行為が虐待になるかの理解が浅く、度々注意を行う必要があった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あしたか退所後に成年後見制度をご利用になるケースがあり、ご家族と話し合った。他の職員への理解向上の機会は無かった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご家族にきちんと説明をし、納得していただけるようにした。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族全員に声をかけ、会議の場で意見を聞く機会を設けると共に、面会や電話の都度に話をする機会を持ち、意見を聞くようにした。研修生も受け入れ、同職種の目からの意見もいただき、改善に役立てた。	日頃から意見を聞くことに努めているが、運営推進会議への家族参加が増え家族同士が話し合うことが多くなった。接遇に関する気づきなど出され、改善に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会や日々の職務中に話をする事によって、意見を求めたり、アドバイスを行った。 意見の場合は、スタッフで検討し、実際に役立てた。	会議や日常的に意見を聞くことに努めている。職員が働きやすいようにと、出された意見はすぐに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「いきいきシート」や「いいとこシート」を作成し、個々に見直す機会を設け、それに対して個別に誉めるコメントをして返すようにした。 個々の労働状況などの変化に対応した勤務の組み方に工夫した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力や今必要であると考えられる研修会があれば、積極的に参加するよう勧め、参加させた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流会に参加したり、他施設との交換研修を行った。それぞれに現状把握や法令について勉強になり、サービスの向上に役立てた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入所者に対しては、細かに話しかけや様子観察を行い、情報を共有してご本人が安心して暮らせる環境を作るよう努力した。なじみの関係ができるよう、ご利用者間の交流にも配慮を行った。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規利用者のご家族に対しても、細かに話を行い、入所に関しての不安が無くなるようにした。何かあれば、すぐ連絡をし、意見もお聴きし、関係作りに努めた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入所に当たっては、特別養護老人ホームへの申し込みもされるよう勧めしており、体調やその他の事情でグループホームを対処された後の対応になうようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共感し、共鳴しあう関係を目指し、時間があれば側に寄り添うようにしている。 お手伝いしていただける所を探し、されるのではなく、していただく事でご利用者に感謝の言葉を述べ、共に生活している気持ちを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の様子を細かに伝える事で、ご家族と一緒にご利用者を見守る事ができるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が切れないよう、面会の制限もしていないが、施設入所と言う事でか面会者が遠慮され、来られなくなったケースも有り関係継続への支援には結びつかなかった。	友人や近所の人々の訪問は減っているが、孫の訪問があったり、家族の協力を得て外泊したり行きつけの美容院に行く人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席順の配慮や手作業時に同じ仕事をする事で起こるトラブルを防ぐ為、場所を変えて行っていただく等配慮を行う事で、トラブルも少なく利用者同士が交流する事ができた。多弁の方への対応が課題。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後のご家族とも必要時に連絡を取り、関係の継続を持った。特養への待機順を聞き、伝えるなどのフォローを行った。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活の維持を目指し、会話の中から意向を汲み取ったり、ご家族から情報をいただくなどした。	利用者の日頃の言葉や家族の話などから思いの把握をしている。利用者の話を傾聴し、これまでの生き方を理解することに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの聞き出しやご家族から生活歴や趣味、今までの仕事を聞きだすことによつて、趣味活動に役立てたが、ご家族でも生活歴を全て知っておられないケースもあり、全員に行えたわけではない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の体調に合わせ、一日の過ごし方を変えている。無理強いのない過ごし方ができるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの日々のモニタリングや職員の気づきを聞き、介護計画に盛り込んでいる。	利用者や家族の意見を聞きながら担当者が作成しスタッフ会議で話し合っている。毎月見直し、状況変化に即した計画を立て支援している。	計画作成に利用者、家族、関係者が同席し、話し合いながら作成されることを望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌兼個別記録表を昨年度から作り直し、記入しやすい物にすることで、個別の気づきや連絡したい事が分かりやすくなった。個別記録が見やすくなった事で、介護計画にも盛り込みやすくなったと思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診は原則ご家族となっているが、ご家族の状況やご利用者の状況によっては、ホーム長が受診に同行し、医師への説明を行い、適切な状況提示ができるよう努めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の傾聴ボランティアの導入を包括支援センターと検討していたが、実現ならず。地域ボランティアにお茶会の開催も依頼したが、実現しなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特変あれば、すぐにかかりつけ医に相談した。相談時と相談結果をご家族に申し送り、情報の共有化を図った。	利用者、家族の希望の主治医による支援をしている。受診には家族が同行しているが、必要時には情報提供書を持参してもらったり、管理者が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調不良時にデイサービス看護師にあしたかまで来てもらい、状況を見てもらい、アドバイスをもらった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、病院側にグループホームでの状況提供を行い、安心して入院生活が送れるよう支援した。早期の退院を目指し、ご家族とも受け入れ態勢について話し合った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された方や既往歴から終末が近い方については、ご家族と話をしたが、きちんとした文書を交わしたわけではない。	開設時より重度化、終末期は法人施設での対応を考えているが、現在重度の人のケアを行っている。医師や家族と話し合いながら対応している。	最大限の支援について話し合いを重ね、利用者、家族など関係者が納得した支援になることを望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法についての研修会をスタッフ会で行ったが、十分ではなかった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホーム独自の避難訓練を開催する事で、今まで気がつかなかった避難訓練の難しさが分かった。 地域との連携は取れていない。課題である。	ホーム独自に消防署の立会いの下で夜間想定訓練を行った。非常ベルの扱いなど課題や気づきがあり意義ある取り組みとなった。地域との連携は今後の課題となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉のかけ方や接し方についてスタッフ会で研修を行うと共に、外へ研修にも出かけた。気になる場合には、その都度職員に注意を行ったが、あまり改善できなかった。	自分が不快に思うことはしないように心がけて対応している。管理者は声の大きさやトーンが利用者を与える影響について職員に話している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めてしまうのではなく、本人が決めるような支援の仕方をしている。(例:朝の衣類決め)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく本人の希望を優先するようにはしているが、朝方や夕方など職員数が少ない時間帯には希望に添えない場合が多かった。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみができるよう、服のコーディネートに配慮した。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	芋の皮向きや盛り付け、食器洗い等できることは行っていただくようにしたが、年々できる事が少なくなると共に衛生面を勧奨し、盛り付けを止めてもらう事も多かった。片付けは行っていただいている。	台拭きや食器洗いなど、利用者にできることは一緒にやっている。職員も同じテーブルを囲み和やかな場面作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方や体重増加傾向の方の主食を量って提供したり、食事量が少ない方には補助食を提供するなどした。又、猛暑時は、水分補給に常以上に配慮し、熱中症防止に努めた。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行えなかった。夕食後に口腔ケアを行う時間を設けたが、十分にはできなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツを使用される事で、失敗する事での自尊心が傷つかないように支援した方もあった。定時誘導の方でもトイレで排泄できるよう支援しているが、オムツ使用者は減っていない。	利用者の状況にあわせてイレ誘導や確認をしている。紙パンツを使用することで安心感を持って生活できるようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の為不穏になられる方の排便状況を確認し、必要に応じて下剤を服用してもらった。 飲食物は、普段から繊維質の多い物を取り入れている。午前中に体操を行うようにしたが、毎日ではなかった。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間を長く設ける事で、好きな時間に入浴していただけるよう支援した。 2人介助が必要な方には、職員配置の関係上、入浴日を決めたが、ご家族にもお話しをし、理解をしてもらっている。	利用者が希望する時間に支援し、夕食後入浴する人もいる。利用者の好みの湯加減を把握し、一人ひとりに合わせて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を特に決めず、それぞれのご利用者にあわせ、安心して入眠できるように、夕食後はゆったりと時間を過ごすようにしている。 廊下の明かりが気になる方には、小窓に覆いをかけ、入眠の妨げにならない様に工夫した。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルを作成し、その中に個人別の薬の情報をのせ、各職員がいつでも見れるようにし、薬の効能等について理解できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の話やご家族からの情報を得て、生活に張りが持てるような役割や手作業を積極的に取り組むようにした。ご利用者、ご家族、職員にも心の張りとなった。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員配置から、希望時間全部に出かける事はできなかったが、できるだけ希望に添って出かけられるよう支援した。職員の都合や気分で出かける事を制限しないよう、スタッフ会でも話し合った。 地域の活動へは、スタッフサイドから働きかけを行い、出かけている。	ごみ捨て、神社参拝、花壇の見回り、洗濯物入れなど、できるだけ外に出るよう支援している。	買い物、散歩、外気浴、希望の場所への外出など、外出の機会が増えることを望む。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、ご家族の判断で持たれている。財布の置き場所をよく忘れられる方は、一応、預かり金をしている。個人で持っておられる方には、生け花代や散髪代を支払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には、電話や手紙についての支援を行ったが、希望されない方のニーズを引き出す事ができなかった。今年度は、年賀状をご家族に出せるようにと思っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、安楽に座れるソファを設け、好きな時間に座っていただけるようにした。玄関や廊下に季節感がわかるような展示物をした。 大きな音や大きな話し声などでご利用者が不穏にならないように注意した。	花や絵や書、裁縫などの作品を飾り温かい雰囲気作りをしている。浴室の段差をなくしたり、倒れにくい椅子の購入、ホーム周辺の整備など、利用者が安全に暮らせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席は一応決まってはいるが、その日のご利用者の気分や話の具合から、自由に席を変えて、気のあった方同士で過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、馴染みの家具や写真を置き、安心して暮らしていただけるよう、ご家族にも働きかけを行っている。	利用者の状況によっては持ち込みの少ない居室もあるが、写真など思い思いの物品を置き環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てに介助を行うのではなく、「今、できること」を探し、行っていただけるようにしている。行っていただいた事には、最大限の感謝を示し、ご利用者のモチベーションアップを図っている。		